



古今集卷鏡

二

卷之三

夏歌

卷之三

卷之四

秋歌

卷之四

卷之五

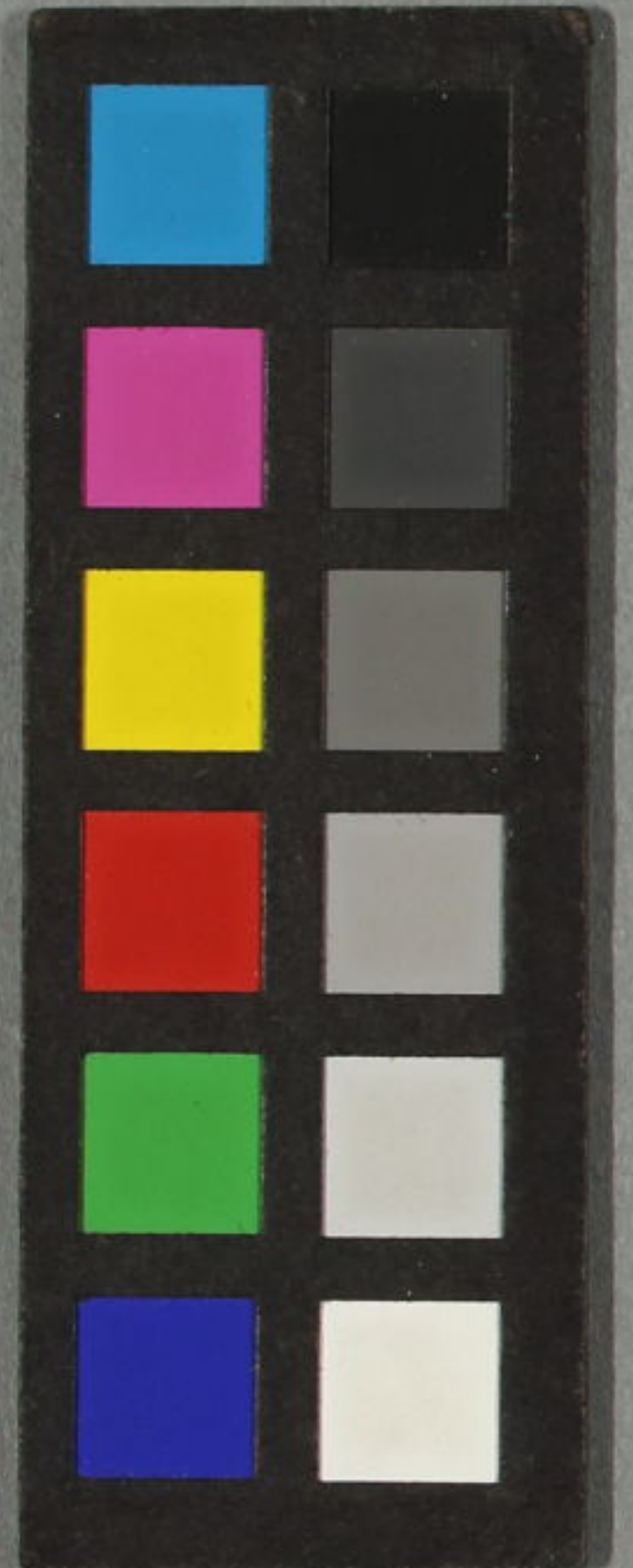
秋歌

卷之五

卷之六

冬歌

卷之六



古今和歌集卷第三巻終

夏哥

歌一らば

よみ人云々

永成やの比乃夏歌は咲ふらしてほそきんいつらきねらじ

○コナクをノ池ノ色ナ花ガ咲タワイ 郭公ハイツネニナクデアアラウ

此のいづ人のいそくかきあのみまのへまらぢ

うづきよさくらゝ梅をさしてよき家

純一らば

あつとてよこは河甲こおちらどとやよふおちまそしむとり暖らき

○今月ニナツテ梅をアルコソラナイナヤ コナクデモ見ル人がアハレ



スゴトナアハレスナト云々河ヲ 方ノ橋へ分テヤルイ 巳ト  
リガサウ云レウト思フテ ワザト去ヨリ後ニオソウヒトリ嘆タテ  
アラウカ 。千秋云結白クイハク

歌云々  
よみ人云々

さつきヤノハ新云々

○郭公ハ五月ヲ待テ鳴ギヤガ マダニ五月ニナラ子座 去年ノ秋リフルコ  
アラ出シテドウゾ今モナケカシ 。子秋云うららきハカ原ノ羽振と去テ羽を  
ゆるや云ハ澤なきハなきがよりきこら

伊勢

五月ニハ新きもゆりぬき新云々

○時モハ五月ニウツクスバ モウ山ニウツテツラウナイテモアラウ ドウゾ

マダニ時弟ニナラヌウチノ声ヲケタイモノキヤ

よみびし

さつきヤノ新きもゆりぬき新云々

○五月ニサク橋ノをニホヒラカゲバ マカタノナビラノ袖ノ香ガサスル

川のよふゆのきぬ いび いき いは いぬ いき いは いぬ いき いは いぬ

○イツニ五月ニウツヤラヒヨロニ待タぬカ 今始テサナクワシ

はさき いは いぬ いき いは いぬ いき いは いぬ いき いは いぬ

○ケサ始メテ来テ マダ工匠ワカズニ旅ガケテ居テ鳴ルヨ 定メテ宿  
ヲトテアラウガ コナクをナ橋ニ宿ラバカレカシ

おとよ いは いぬ いき いは いぬ いき いは いぬ いき いは いぬ

まね山とてのつと

まね山とてのつとまね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山ヲケサ紙テクレバ時キガアノハルカナ指テ  
今始メテサ  
ナクワ

まね山とてのつとまね山とてのつと

まね山

まね山とてのつとまね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山始メテ時キガアノハルカナ指テ  
今始メテサ  
ナクワ  
まね山とてのつとまね山とてのつと  
まね山とてのつとまね山とてのつと

まね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山とてのつとまね山とてのつと  
まね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山とてのつとまね山とてのつと  
まね山とてのつとまね山とてのつと

まね山とてのつと

まね山とてのつと

○まね山とてのつとまね山とてのつと

○まね山とてのつとまね山とてのつと

郭公ねくしんきききむふまじかーあつさぞきーわりらる

○ホトキスノナク声ヲキケバ 感懐ガオコツテ ハナシテキタヘカク 在所ノろりニテガサ ナウカシウ思ハレルワイ

ほとぎききむふまじかーあつさぞきーわりらるのかけ  
○時々ヨソナ、ナク里ガアソコニモ、ニモアマタアツテ コ、バカリテ時々ヌニヨ

ツテ 貴<sup>五</sup>思ヒハスレドモ ソレ<sup>四</sup>モウトクシウ思ハレル  
おとひいづとんきその心乃時きか〜とさるあのみりおとぞおく

○三 声ヲアゲテサワシヤ ナクワ〜  
四の白い〜ぬり出の序の〜  
ハ美〜さ〜い〜ふ〜

あつさぞききむふまじかーあつさぞききむふまじかー

○四 時々ハ ナク声ハシテ 後ハスガ 後ガナクバ オレガ袖ガヒツタリトモテ  
アルヲ借テアラウホドニ コレヲソナガ泣後ニカツタガヨイ

あつさぞききむふまじかーあつさぞききむふまじかー  
○オレハイツツ泣テバソカリ居ルガ アノ時々モオナシヤウニ 間モナレニ

鳴テオレト誰ガ勝ツ サアナキクラベヲセウトテ ヒタスラナクワイ  
をり〜を時延お〜時長くほ〜く〜  
へ〜時長く時長く〜

今ら〜ふふへ〜  
○山カラ出テキテモウ里ナシク〜  
今サラ山ハカヘルナヨ時々声ノ

アリタケハシイマデ コナノをテナケ

みふのまら

やうやういふ歌をあしつてむと世の中にもなまらびぬとよ

○山へカハル時ちヤイノウチヨツト待テモ コトツテラセウ ロヒモウ世ノ

中ニ住アグニタワソレテ遠付ワシモ山へコモラウト思フホニサウ云テクモ

宛平の時きまのまれば飲合乃

紀友別

あつたれよおとひをまばの時ち萩原くつていづらゆくらき

○五月雨がフリワイテイヨク夜モヤキト物思ヒラシテ居ル時ちがはテ

イタカ夜モフクニトチイクヤラ オレモ此ヤウテハドナナリヒイキタイ

おやくしにきやほじへる郭公お座ををりもさかしてりおく

○夜デクスイヨツテドチモイカヌカ 又ハ道ニヨウタカ郭公ガモモ

多イニヨクをデバツカリドモとテイナシヌヤウニチツト鳴テキル

大にふ里

やどりせし木橋もかきぬくふねや時ちるしちちえぬしむ

○宿カテ居タ橋モガカレモセヌニ時ちハせヨソイテ声モセヌヤウニツタヤラ

きのほくゆき

まればおのぬまかしまれば時ちるわくしちちちちあつた志のめ

○子ルカト思ハ時ちるナイタ一声テハヤモウおカタニツタ サテく短イ

夜カナト句又ハ 郭公ノチタ一声デ自カサタガ ハヤモウ夜ガアケル

志の心事を。おぼのめく。おの目ときる。おれを。後の澤へ。 熊材志  
のつれなき。しみし。 。子秋云。初句れのりどは。かのみませし。  
おものあつて。ほくは。くひらり

みよのしづみよ

くさくさ。こつんき。おぼのめく。おれを。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。  
○日かえルカト思へば。ハヤアケなげ。夜ヲ。アヤリ短サニ。おぼりオホ  
ウ思フテ。郭々ハアノヤウニナクカヤ

紀秋峯

まげり。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。  
○此山へ。おもひ。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。  
ナク。熊材志。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

おぼのめく

おぼのめく

こその。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

○去年ノ。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。  
ハ去年ノ。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

郭々のおぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

○おもひ。おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。  
イト思フテ。アノヤウニナク。アノヤウニナク。アノヤウニナク。アノヤウニナク。

おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。  
おぼのめく。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。おれを。

ほやうぎとちをすしむ心はほろふつるはらへさぬ

○ 郭ちガナクカトトマテバ 声モウエヌガ ヨソテ鳴ク多ナリトコハ

ヒイテツエバヨイニ 山コタテハナゼニコ、ヘヒカサヌゾイ

心ココロやうぎとちのつらみはきこしてよめる

つゆに

新ニジ人トの心ココロはくろくあきばあうちるきふあやまらるる

○ 人が来モセウカト待テ居ルは松山ニアクヤウニ新ニジガナケバ 今マテ

ハサホドニモ思ハナダガ ニカニコチモ人ヲ待ツ心ガハサツタワイ

もやうぎとちをすしむ心はほろふつるはらへさぬ

つゆに

いへや今と云いぬ郭ちの心はくろくあきばあうちるきふあやまらるる

○ 竹タケヨソチモオレト同シヤウニ 昔カ今テモ思シイカ 而モ多イニハ本ノ

在野キ来タノハ昔カ思シイヤラ ○ 千秋云々もたうきも

竹タケのつらみはきこしてよめる

なごぎんをすしむ心はほろふつるはらへさぬ

○ 世中ヲウイ物ニ思フテ泣テクラスモハオレキヤカ時多ハオレバナシニドウイフ

テ世中ガウイト云テおむアタリヘキテアヤウオレト同シヤウニ泣テクラスコトヤラ

なごぎんをすしむ心はほろふつるはらへさぬ

○ 蓮ハ世中ノ濁リニソク又譬ヘニ此經ニトイテアルガサウエツ 清浄ナ心



テナゼニアノヤウニ葉ノ寄ヲ玉トスサ人ヲバダマスコトゾイ  
月のおもひのかりきよふらつまがふよまんふ

ふやや

まねおとまじごめめがめめははのづこふ月やどりき

○ア、ヨイ月テアツタニ、なる夜ノ短イハマダヨヒノマテ、  
ナニハヤ明タモノ、コノ夜ノ短サテハ月ハ、西方ノ山デイキツク  
るハアルマ  
イガアリ、曉ノ雲ノドコラニトマツタヤラ

とほりよるこもつのもどひおあせりれい  
けきをよみてはららみつ

らうふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

○手あノトコナツハ、カトウガス寐マズ床ナツテ、大のデゴザル、  
花カ

サイテカラハ、塵サヘカケイトサ存ズルホド、大のデゴザル、折テハエニゼ、  
スマイ、  
千秋云、はま上句、三ニニト、  
句を次介して見へ

みる月の輝ごもりは日よめ

な、秋のゆきふやせをひぢ、かへまじき風やぬくらむ

○今、晩クヒテユク夜ト来ル、秋トイキチ、カウセノ参り道ハ、  
通ツテユク片一方ハ、ダ暑ウテ、秋トホツテクル片一方ハ、  
スギイ風  
ガフクデアアラウカイ

古今和歌集巻之第四巻を流

秋歌上

秋の月日よめ

藤原敏成の歌

あきしぬく光のさやふんふんしづも風のまををあらぬを

○秋ガキタイフテソレトツキリト目ニハエエヌケレトケフハ風ノまが

ニハカニカハワタテサコレハ秋ガキタワトヒツクリシタ

秋の月日よめのをのこどもかどの月系に月をうそりし

しづもふまかりてよめしづもゆき

河風のこころしづもあつらふらふらよするはしづもあつらふらふら

○川風ガサテモニア涼シイコカナほモ立トキ秋ノ寒ルモ立ツトイ

ハ此岸へウチヨセル浪トイツヨニ秋ガツツタカシラヌ

類考

とみむくしづも

こがせとがねのまをを以て久しうらたつしき秋の初うを

○上コレハくメヴラシイ秋風ガヤサテモ涼シイコロヨイ

海村ハコガセハ女とや母とてしづもあつらふらふら

のちあつらふらふら又ち林良材集ハしづもあつらふらふら

古々集方あつらふらふらしづもあつらふらふら

秋風ぞぬくしづもあつらふらふらしづもあつらふらふら

まのふらふらあつらふらしづもあつらふらふら

○下昨日コソハ田ヲウエタレソレニアイツマニハヤウニ稲ノ葉ガソ

ヨクトシテ秋風ノフクヤウニホナウ多クゾ

秋風の吹ふ一日とてむさかたて天の川系にもぬ日ハ形し

○ワニ秋風ノフクソメタ日カラシテ 毎月ハヤウニハ天川ノ川系へ出

テ立テ君ヲメタ又日ハ一日モナイ ○ふ秋云は多形どハあるぞとつめよ  
ありてよめん七タのちけお多し。

むさかたて天の川系にぬ日ハ形し

○天川ノ渡シ守ヨ 君ガコチラへは渡リチサツタチラ チキニミ船ノ棹ヲ

シレヌヤウニカクシテオイトケレイソシタラ 川渡ッテ内カヘリチサル一ガナ

マイニヨツテ イツニテモコチニ内逗留デアアラウニ

天川もみち海橋ふくくせづやもぬむとつめ秋をくもす

○天川ノ橋ニぬき渡スユエカテ時<sup>五</sup>多イニ柳機櫃ガ秋ヲ内待チサル

あひくしてゆやよはくしむ天河方まきりあ河きずもあむ

○二年ノアヒダ長ク月日ヲ 哀クテ 名ヲ一夜彦星ト柳機ト内待チサ

ル夜ハヨヨヒギヤ ドウゾ天ノ川へ方ガ一メニ立テ 野ウチツテ

イツデモ夜ガアケ子バヨイ

寛<sup>五</sup>平<sup>五</sup>所<sup>五</sup>あぬ<sup>五</sup>の<sup>五</sup>よ<sup>五</sup>う<sup>五</sup>ふ<sup>五</sup>さ<sup>五</sup>や<sup>五</sup>ぬ<sup>五</sup>を<sup>五</sup>の<sup>五</sup>こ<sup>五</sup>ん<sup>五</sup>じ<sup>五</sup>ま<sup>五</sup>れ<sup>五</sup>と<sup>五</sup>作

せ<sup>五</sup>れ<sup>五</sup>る<sup>五</sup>人<sup>五</sup>の<sup>五</sup>ら<sup>五</sup>り<sup>五</sup>を<sup>五</sup>ま<sup>五</sup>る<sup>五</sup>と<sup>五</sup>と<sup>五</sup>の<sup>五</sup>り

河のあは浅流あまこぬむつてはアそしねばあまむとさうは

○天川ノ浅流ノ和ヲシラヌニオボウカウテ 水チカラアチヤコトヤトニヒドツ

テマはツテニイモセヌウチニサ ハヤ夜ガアケタワイ ○ふ秋云は多形どハあるぞとつめよ  
ぬよのこんじり

河はあまのせれあ合のち ぬ京あまのくせ

契つしきむしんぞほきあれがら年ふらびあさりような

○一年ニタツタ一なヅト約本シテオイタ概核ノ心ガサキコエヌ一年

ニタツタ一なヅラ井アウノガアウノカソレヤアウト云モノデハナイ

七日日の夜とめ、 九河島船怪

年ぶつにあやしいねどもあねどもあぬよのねどもさなるかりたり

○概核ハ毎年慈ワシヤリハスレ厄一年ニタツタ一なヅナレバ慈ワ

シヤル夜ノ救ハサスクナイコトキヤワイ

もねどもふかいつふれうちとく年のをそくこひやワ〜〜

○夕ノ夕祭ニヨヒ手向テス借ヲシテ系ノヤウ長ウ引ビテコカラモ年久ラハヤウ

ニ思テ月日ヲタレテアエラカヒハ七々ふもあつあのがるのちるり

野々々々

そせぬ

あふひとむし人ハ河ぼもあまもいせしは神おやちりしすれ

○今夜クル人ニアウマイ今夜ハ七々ギヤニヨツテ概核ノ久シイ一年ノ間ヲ

待ノニアヤカテコキモ久ク待ツヤウト申ニテモアラウホドニ

たぬれよの嘘ふよめ、 源ひひゆきのねほ

今ハとてマカ〜時と天の川〜〜ぬきはふ神をぬちらぬほ

○サアモウト云テ別レルトキニハマダ天川ヲ渡リモセヌサキニヤウ

ニ神ガヒツタリト候デサヌレタ

やうく此日とをる、 みよのあがみね

〜よりの今とむし〜は昨日はぞいつ〜や〜の〜は〜な〜ま〜

○夕チバタ極ハサツ 今日カラシテハ 又今カラ来年ノ七月七日唯日ヲサ  
イツカ〜トヒタスラ待テ月日ヲタテサツヤルデアラウト思ハレ

秋のきりぎりす

よきこころらび

これよきものもあらず月の影見えば心ざく〜秋をきふらと

○ホノ枝ノるガモツテクル月ノ影ヲ見バ 度ウ見ルトチガウテスコツホカ  
エ子バサテ〜シキナ物チヤ 是ヲ見バ今カラ熱躰モノゴトシキナ秋ガキタワイ

大〜この秋くら〜ふ〜がオアを〜き〜ものと思ひ〜ら〜ぬと  
○世ノ一回ノ秋ガキタカラシテ人バヤウニナイサウニオヒトリガサ 秋ハカナ

〜シイ物ヂヤト思ヒシツタ 秋オレ独ノ秋デハナイ世ノ一回ノ秋ヂヤニ  
〜が〜免〜ふ〜秋〜も〜ゆ〜ぬ〜く〜小〜使〜け〜ひ〜き〜を〜い〜づ〜を〜思〜し〜き〜

○オレニ悲シウ思ハサウタメニ来ル秋デモナイニ 虫声ヲキケバ 人ヨリ  
サキヘマツ一番ガケニサ オレハカナシイ

物あ〜ふ〜秋〜を〜か〜る〜き〜も〜み〜ぢ〜う〜つ〜ろ〜ひ〜ゆ〜く〜成〜深〜り〜と〜る〜ハ  
○<sup>三</sup>葉本ノダラ〜色ガカハワテ <sup>四</sup>返テイクノハ <sup>五</sup>葉本ノシニニナルノヂヤガ

オツケサウ物ノシマイニナル時ノハジメヂヤト思ハ 熱体ノ物ナニツチ  
テモ 秋ハサ 悲シイ 秋ノ物ニハ 悔材ヨク

〜し〜り〜ぬ〜と〜し〜る〜葉〜ふ〜ゆ〜し〜も〜秋〜を〜よ〜ひ〜い〜あ〜ま〜かり〜ら〜と  
○葉ノ葉ノコフ秋ハチヌレモノナレ ワシガヒトリ子ル座ハ葉ノ葉ノコフハ

ナケレドモ 秋ニナレバ 秋ハハヤウニ海デチヌレワイ  
あ〜ま〜ま〜あ〜み〜の〜あ〜乃〜ち〜合〜れ〜し〜

つらとどはめきこめひど秋の夜ぞものよよとけうびりぬり

○イワハ物思ハヌ時チヤト云ハ時節ノ差別ハナレニイワデモ物思ヒハアル  
ケドゾウチニモ 秋ノ夜ガサ イツチカモヒスル頂上チヤワイ

かむるもはほがふんくつかりて秋の夜と一むき  
よみらうついでふもろ みつね

ほがハ山坪の月をい梅壺を掃壺がどつやをその山坪の月ハ  
あふふまはもてその舎ハ異名にあふらぬかむらりのつやも  
雷の音くろりやありあり矣名ふなれぬ壺字ハ宮中術謂之  
壺コトとけく是レ器の壺ハ別なりまかやうとけく

かくづりをいとよおはけつづふねて何をもむくきとぞうれ

○コレホドニ面白イアツタラ秋ノ月夜ヲ寐テシマウテイッブイカムサクトハス人

モアラウガサウシタ人ニテガサキコエヌーヤト思ハル 竹材ツクづつづ  
の統トウらーしづづふねてハ掃ソウやうけくあふらぬし

おきふもよちふーとぶるのねさくえゆる秋のよお月

○サテモサヤカナ月カナ 雲トクホドニイ空ヲツグテトデテ方雁ノ敷  
マデガヨウニスル ふれ云ふのちかすハハツつもほくうりて居るを  
羽を折ぐととる白きとさうりてハある

さよ中しおハゆきぬし居がのすゆるちりー月とくさるる

○夜ハイカウフケタモウトニト 夜半ニチツタサウナ 又レハ居ノチク声ノ  
ウエルズツトワラ方へモウ月ガマツタ

是夜此の秋の分余も大に子星

月をきばちふものしをわきしるもあつたの秋はつらねど

○月ヲスレバオレイワト相ガサ悲イワイオレトリク秋デハナケド

くみみ

おきうそは月乃のりも秋はあやみぢもれどやてまきうもむ

○月ノ申ナ桂ハハ玉土ノ木ノヤウニ秋ヂヤト云テモおはスルナド云ハアリソモ

ナイモノギヤニソレモヤツハリ 秋ハおはスルカレテ イツモヨリハ光リガテ

リマサツタ おはスルニヨツテハヤウニ照リマサルデアラウ 打つてあらし

月をきばちふものしをわきしるもあつたの秋はつらねど

秋の夜は月のさうりしあけきばつらねの山とあつた

○はヤウ二月ノ光アカイ秋ノ夜ハナニボ闇イクラブ山デモ裁レウトハレル

人乃もゆふふあらしり ちもあきつるぐまのあきけ

あききくしるる ぬらうしるるあき

きらびびりつてあききくしるる 秋のよれを思ひいふあきまされ

○コレ西亭主キ根ハ心若ガオホウテイワクノチヲ思フテ夜ノ長イラ明

シカ子ルトイハシヤルガ西亭主アキリグスト曰シヤウニアマリ泣シヤルナイ

心若ガ多ウテ秋ノ夜ノゼインガナイワチハキ根ヨリ 拙者ハサナホ

ノコトヂヤロイ 餌材おすとのふくろし

是夜此のあつたのあき ちもあつたの秋はつらねど

秋のよれを思ひいふあきまされ

○此長イ秋夜ノアケルモシラズニアヤウニテク虫ハオレガヤウニアレモ物が悲シイカニラヌ

野々子

よみ人

秋夜も多ぶもこぬききりくそわが秘ぬじやふらハかろしき

○秋ノ葉モ色ヅイテソロク枯カケテクル時ぞはニツタバ物悲ウテ夜モ子

ラレヌニアノ蕃モ回シヤウニ夜ハ鳴ハソチモオレガヤウニ物がカナシイカ

秋の葉をまろしとあふなきかりし葉ひしこふひのこづきしは

○草ムラゴトニアノヤウニ虫ガ難美ガツテナクノヲキケバ秋ノ夜ハあ

カサカクヘツニキイサウチ

志志のぶ草のふやうあひぬはちとハちの虫のさぞかろしかりり

○人がスステ、ヨリツカイデドモカモキツウアレテ軒ナドハハシブガハエテ

又若シウツテ其人ヲ恋シタラテ居ル家デハをテナク松虫ノ声ガサ

人ヲ待ト云名ユエカ一入カナシウサエルワイおぼやつこのはちりし

秋のせりもさもほむひぬよ虫のあそむる方にやどわかほし

○此秋ノ野デモウロモクニ及ブ道モフミヨウタホドニアノ人ヲ待ッ

ト云名ノ松虫ノ声ノスル方ヘイテ宿ヲカツタモノデアアラウカイ

あは乃せに人まろししれ了忽そまろあうしほしほさうさう

○此秋ノ世ニアレ人ヲマツト云名ノ松虫ノコエガスルワソチヤオレラマツ

ノカト云テトレヤ行テオミマヒヤサウ

ゆみぢ葉のあてはゆれるまが屋ぶふ世をまろ虫さうさう

○モミチガ散テツモツテ誰モフミ分テ来タ人モナイコチノをテタレラマツ



トテアノヤウニ虫ハシキリニ鳴クコトヤラ  
タレモ来ル人ハアルマイニ  
あつすつし 鮭材ころし

むぐししはあきうゝあべは日ハあぬとちハ山の陰もさるる

○ヒガラガ鳴クニツレテ日ハクレタト思フタハサウデハナカツタ 山ノカゲテサ

聞イテアツタワイ ○子林云々ハハ並ウテこましくかましくなりぶあよ  
よらんつひおきき并こましくつひおまこまふちうし

日ぐししのなく山里は夕暮ハ風よりあふふとよ人もなし

○ヒガラレノナク此山里ハユフグレニハ風ヨリハ一向ニ死子テクル

人モナイ アハサビレイコトヂヤ

とつらむばあさ 左系元方

ヤム人ふけぬあうとつらむのなきあくらけあぐししきや

○待つ人ガキタカナブノヤウニケサ始メテ居ノ鳴ク声カサテモノヅラ

シウ思ハレルコトカナ コチガ待テ居ル人デハナイチヤケレド

是夜が家のあ合れあ ととのり

秋風ふらう居かゆどやのゆれとぬぐおづさばうけしきうい

○秋風ノ吹テニアレ始テ居ノ夢ガサスル居ハまきカカラノ快ラクビへ掛テ

持テ来ルト云ーチヤガアノ鳴居ハドコカラタガ快ラクケテキターチヤヤラ

野あしとら よしみ人あらば

わぐやふつるあやせまのぬくまふらさぬく風ハ居ハきふりり

○コチノカドデ 稲原鳥ガナクニツレテケサノ凡ニ雁ガキタワイ

ゆいそやもねねるうああの色とあくとのみぢあへる

○キツウ早ウア雁ハナイタノカナ 秀ノ色トル木ハモダロクニ紅葉モセヌウキニ  
去ニ旅ノミミシノヤ かつぐのハハミを鳴る 秋をけくへり

○去ニ旅ノ中ハカスニエテイニダ房ガソノ時ノ旅ニ同シヤウナ秋  
ノ芳ノウヘノ方デアレ今又ナリハ

夜をきみし夜もかりごとぬくまふ旅の下葉もうつろひふる  
○夜がきサニ衣ヲカルト云名ノ房ノ鳴ニツレテ 萩ノ下葉モウツロウタロイ

此のあはれ人のいもかきのもやの人もあつがごと

寛政時きよのきよあ合のあ 旅不葉根幹長

秋風よ身をほふあきしく 船ハつるのし海ノ房あをけりけ  
○アケクアノ喜イ 海ノヤウチソラヲ 秋風ニ声ヲ 高ウ帆ノヤウニアゲテ

船ノヤウニエテ飛ルモノハ 鳴テワタル雁ノヤウイ

かりけつるはすてよあ みる子

うらもけ思ひつゝねえろが子のねえとをほき秋のうらも

○房ノイクワモワラナワテはテワタルヤウニオレハ秋ノ夜ノウイノ  
おノヲオモヒツケテ毎夜く泣テサアカスワイ

是れみこれ家のあ合けり 心界

山里ハ秋ノとあふふとびー 秋はさうけつるふれをきやうつ

○山里ハイツデモトエウチニ 秋ガサ別ニテツラウチニギニ豆ハルワイヨルく  
鹿ノナシ声テ目ヲサニテハ夜ハモ何ヤラカヤラト 雑草ナラヒヒツケテサ

とみおやうと

おく山もみらぬ如き鳴麻は春きく時を秋をうけしき

○秋ハ悲新カナイ時を夜ヤガモ秋ノ内デハ又ドウイフ時ガイツチ悲  
シブトイハハね紫モモウ友テニウタ奥山デフ友夕ね紫ヲ麻ガフミ  
ワケテアルイテ時声ヲキク時分ガサ 秋ノ内デハイツチ悲シイ時を夜ヤ  
ゆきしけハ麻はあふりし

秋ししはば

秋新ようし色をれを是川の山ふりごとくみ麻のぬくらひ  
○秋ノ紫モ修枯テイクラ足テ時を夜ガサニハヤウニウナジヨナ  
ゲテ居ルニドウエテアノヤウニ山ノ下ニヒクホド麻ガウゴトヤラアノ  
麻ノ声ヲキケバイユク想レウテドウモ夕ラニをれしをよのうと

秋新とをぐくみやそてぬく麻はあふりしをりておよのやらさ

○野ノ秋ノ中ヲフミテラシテオシセテシカラニニテ時アルク麻ノ目ニスエイ  
テアノア声ノサヤカニヨウサエルコワイ  
○ふ秋云右ハ麻をよのつるをよもあはくし  
といひりガ紫ふさのちくねもまあり

乞欠みみおれを余よあぢりしはごいさのね居

あきさびの花はふるりし砂のをのへる麻々へまやぬくら舞  
○アレ秋ノ花ガサイタワイ 山ノ麻ガモウナクデアラウカ

ひや けいひをうしてはるる人の秋乃やあてあひておがり  
しはるはいてふよをみつね

秋乃のゆえふしまはさるる色バりゆくのゆきまを秋きありらと  
○秋ノ去年ノ古枝アレアノトホリ又花ノサイタラスレバ 草木デモ

一カタノウラバ忘レハヒセヌワイ スレヤソコモトモ 中絶ハ波シタケレ  
ド先年ハコソイニ波シタケハオワスハナサルニイ

影あらしむ しみくしむ

秋をぎざ下紫色づく今よりやをらしむ人のついでふま

○秋ノ下紫ガソウ枯カケテキタア、辰ト夜ハ長ウナラウモウコカラ

又オレガウナ独ズシ者ハ子ラレヌデアラウカイ ○秋云はたの白き

つゝ家かこは海やおらつゝきお思ふなやのそ乃とせ

○アハテく悲シイユナクをアノ秋ノウへ、おガキツウシゲウオイタガ

空ヲワタル雁モオレガウニカナシイカアルカシテ泣テイク スレヤアノ  
雁ノナク海ガオチタノカシラヌアノ秋ノお

秋のおりむりぬりむりどれをまぬよりんむへ枝あがりんよ

○秋ノおガキラクトシテアマリヌサニ玉ニシテツナカウト忍フテトツタハ

チキニ浦タテイワソテラヌヤウト忍フ人ハトラズニヤリ枝ニアルマデヌヨサ

ゆくのそくはあはれのみをばりし

をりて足おちぞぬき秋おの枝とらむにかりふふ

○秋ノ花ノエタモヒラクトタワムホドオイタアノおガキツウスツナガ

アレヲ折テ取テ足ヤウトシタナラサダメテ落テシウデサアラウ

もぎがさちるさく小ぬのをおふぬきてをりむさよぬくとも

○今夜妹ガトコロヘイカウト忍フ野乃ハ秋ノ花ガおテサゾおモ源イデ

アラウガヨイワヌレテイカウゾ 夜ガフケテおハシゲクトモ、おをれとよハ

くらきの下を万葉ふまし皆然也。子秋云ねとてそのをハ助祥ふが  
 是具むれぬのあ合にあり。又金、何きやま

秋のやふおくちくちかまをふりれやほくねきかろくもれ系もぢ  
 ○秋ノ世ノあハ 玉ナヤカレテ 蛛ノ糸スデヘウナイテカケタ

野々々々々

傍正遍昭

名ふれどくおまづばりぞ女をむれおちふきとんまかす

○女郎花ト云名ガヨサニ 千ヨツト馬カラオリテ 足タバカリヂヤツカナラズ  
 オレガ女ニオチタト人ニ云テハナイヅヨ

きりり〜おふ おまづ〜おはて〜おちり〜おはれ〜おまをみる〜  
 をれき〜おはれ〜おまづ〜おはれ〜

傍正遍昭がわゆるおちりへまわりのくはふをさあふ〜  
 をみる〜をさあふ〜 ね〜おのまら

ともね〜いし〜あつ〜ぢり〜を〜と〜あ〜と〜あ〜と〜思〜た  
 ○アノ女ヲ花ヲバア〜イタツラナ女子ヤト思フテオレハヨツニステサをリ  
 とテイクコハ男山ナバ 男ノ中ニニジツテ居ル女子ヤト思フニヨツテサ

是はみよれぬあ合れあ と〜ゆきのおちた

秋のやふや〜り〜を〜女をも名成むつ〜と〜松あり〜お〜ん  
 ○トニルナラ 秋ノ世ニトニルガヨイ 女ヲむガアウテ 女ト云名ガムツミシサ  
 五 ヨソテ寐ルヤウテナイワサテ ニの夕れをの〜ををつく〜し〜松林  
 おちり〜のふと〜き〜え〜ん〜

○ふ秋云はまきふあ〜あ〜を〜おちのあとい  
 ちれて代西まで縁をとと云〜つ〜ん〜

○ま後二

○二十

野々々

そのいし

をみるべしあやかしやぶふやどりやせばあやしくひびきの名をよみ

○女もむのオホクアル野ニトワフタナヲ あやしくワケクナイニアダナ名ガクウ

カレラス 女もト云ハ名バカリデコフアレ ホノ女デモナイニ

朱雀院のをこねてあせふよみてなりき

たのおんまきちきこ

をみるべし秋のせぬようちねびきむむらひたきふよきむ

○ヲミナシガ秋ノセノ風ニシボクガ タニ心ヲヨセテアノヤウニシボクヤラ

むむらひしつあきふんむむむむ

藤原定方御覧

秋をいしあやかしやぶふやどりやせばあやしくひびきの名をよみ

○天ノ川ヨリタナバタノ秋デナウテハアヌ所ナレ アノ女ハ花ハ天ノカハ

ラニハエテアルデモナイニ 秋デナウテハアヌガナリガタイ女チヤ

はしゆき

あやかしやぶふやどりやせばあやしくひびきの名をよみ

○誰ガ飽<sup>アイ</sup>タトイフ秋デモナイニ 女郎花ハドウシタゾアヤウ

ニ色ニ出テ恨<sup>デ</sup>テ マダ早イニウツロウハ

みゆき

あやかしやぶふやどりやせばあやしくひびきの名をよみ

○アノ妻ヲコヒシタウ麻ガア<sup>アノ</sup>ナクハ あやしく池ナヤツチヤ 女郎花ヲ己ガカヨ

ウヤノ花ヲヤトハ知ラヌカイ 女をトイハバ女子ヤニ ナゼアハヌゾイ

とみまー吹くところ 秋風を吹くよハッて 神じまのときさる色

○女をむヲ吹テトホツテクル凡ハ 目ハソレトスエヌケレド テウド女ニ逢テキタ

男、ウツリガスルヤウデ 女所むヲ吹テキタト云フガ 香テサヨウニルワイ

とみみ糸

人乃るるうやうー此をみまし秋芳にのそとあちかららむ

○女をむハ 女ヲハツカニガツテカクレヤウニ 芳ニカクニテバツカリアルガドウ

云フテアノヤウニ芳ニカクレヤラ アレモ人ノ足ルガメイワクナカイ

とみみのくねぐむーすうハ 女やむこがとみまをふうあてスエマーと

○女をむヨハ 神系ニ此ヤウニオニヲテヒトリニホくとテバツカリ居ヤウ

ヨリハカレガヤドヘウツニテ植テ 又ハヤニテヤラウモノヲ 解材ふあ

ぐふーおつらさし

○ふ秋云いりりハ一りくおあふーまはけさむ  
女の男ふるまむーてむりけさうーにささり

ものすまかりきる 小人のあまをみまへーうさり

りあさつてよさる 兼覽五

女をむうー修さるることろあふけられさるやとふさりあてれば

○アノ女を花ハ アレタヤドニ 又ハ人モツカズニ 冬タ一人居バサテモマ

アキツカイナ物カナ

空をよす時花人あれをのこどもはぐせふ花をむしと

まかりあつてうーあつてとみまをうーとみみらう

てふとあぬ 年らぶぬむ

おふりぞくくきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
 ○夏の中色くろ花ヲハライツハイエスズニナゼニヤウニカレヤラ女良を  
 ノ多クアル也デコヨレハ子ヤウデアツタモノヲ女ト云名ナレバヨイトリ取チヤニ  
 乞ひみこはぬのら余らる せーゆきのおれ

かふくくきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
 ○けふチバカハハカカハ人ノ着テヌキカケテオイタ袴ゾ 毎季く杖ニテ  
 レハハ世ヘシラニホス 今ニハヤウニホウハナデモコレハナニタイテイノ人ノ袴  
 テハアルイヨクくレキくノ人ノ袴デ 香ガヨウシメテアルユエデアラウ

夏袴をよみて人よきうきう けくゆき  
 やどりせー人のけくけくぬばらぬこきくぬばらぬまよあひひく

○けふ袴ハイツツヤハ方テオトリナサレタキ後ノ形見ニオイテハゆり  
 ナサツタ袴デゴサレガ今ニラスガキ香ガ示フテサキ後ノチラハツカク存ズル  
 ぬしーらぬのころとあわへき故のゆふしぬがぬきうきう 夜をうぬぎゆ  
 ○けふチバカハハハ秋の中へ 夕ガヌイテ掛テオイタ袴ゾマ<sub>ア</sub>主<sub>シ</sub>  
 ノシレマ香ガサニホウテアル

おとあーい 平らん文  
 今よりハうゑてふ見ト花をくははふ物 秋ハむぎーうりら  
 ○スキバドコモ多クサニアル物チヤガ ソレヤドウモセウコトガナイチヤガ  
 今カラセメテハコチノをニナリトモ極テハ又ヤウニセウヅアソヤウニ着ノ



穂ガテ、秋ノケニキガエエバ キツウ物ガナシウテナニキナワイ  
ふふハ、<sup>あ</sup>のりともものさへ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

一 宛平、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 左京、ひのやま

秋のやう、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 神とるのむ

○スキ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 袖カシラヌ

ヤウニエルガ スキ種ハ秋のせノ惣解ノ草ノ袖カシラヌ <sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

袂と神とハ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ <sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

素性法師

このものや、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

○キリ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 面白イラカゲニるニ候テアルノナデシコト云見ヲ

母親ヤ乳母ナドモ打ソロウテトモぐニテウアイスルヤウニ タレニモカレニモ  
見セテ賞斂サセタイモノチヤニ タツタスノ手デソダテル鬼ノヤウニ オレ  
ツカリガア、ヨイ鬼ヤト云テ独リスハヤサウコカヤ アツタラハ花ヲ  
竹材後の説ちろーおはこあー

秋あ〜ん

よみ人あ〜ん

みどりぬ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

○春見夕時ニハタ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 皆同シ青イッソノ草チヤトツカリ思フタガサウテ

ハナイ <sup>あ</sup>の秋ニツテ今見バコトヤウニイロクノサア、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

あ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ

○ツウ、<sup>あ</sup>の秋、ふふのそとをふふに記せむ 花ノ冥クヲ紐トクト云チヤガ

花ノ帯紐トイテニダシテアル面白イ秋ノ世デドレヤヨチモアノ花  
ヲ賞翫シテトモぐニニダシテアハウヲツクサウ 人カニタナラ<sup>五</sup>スレハ  
アア何ヲチヤトフシニ思ウデアラウガユルセク

月系にハ流もハミミキヲオホネトシテのちハウウハヒぬと

○キルモヲバ 月系ノ花デスラウ エイ色ナ物ヂヤ シタガ外ハ色ノウ  
ツリヤスイ物ヂヤヨツテ 秋ノ世ニタレタラ 色ガ外ノ物ヘウツテ  
シハウモシレヌガ エイワサ 後ニハウツ、タト云テモ

仁和のみくぢとみとふおーゆーはる時をねむれば流  
せむとしておーはしるさふ遍昭が母のあふやどりねり  
きつふをば秋のふけをまておむねぐりあははつて

おもひをまてけ

傷心遍昭

里ハあもて人をぬりにしをどられやをもゆが秋のせらね  
○ハヤドノ後ハ 里ハアハニシタ里へ 住テヲリニスル者ハ老人ハ波シニスレ  
バ信り不都合ナ 宿ユエカ波シニシテ、をモ籬モ 伊傍下サニス  
トホリト下ハヤ秋ノ世系デゴザリニス 上ウのニのをものどんぞんじ

古今和歌集卷第五遠鏡

秋歌下

是欠みこはあのうなは 文を康来

吹のふ秋の草木は志をうつれどうづい風をほしとつて草

○フクトソノ、秋ノ草ヤ木カア、ヤウニシラレバ、むナ<sup>ラ</sup>トガヤソレテ山ノ風

ヲアラシトハニテアラウ ○秋云はしとら名ハばきのごとく物とあつとをこ  
よて金荒ら又あつま凡とつと凡とをこつと

そのも木を色かきとむもつて海の流れをもど秋あうりけ

○草デモ木デモ此秋ト云時を込ガアツテ皆色ガカハツテ枯テシマウケレ

トモアノ海ノ浪ノ花<sup>ハツカ</sup>リガイツデモヨシヤウニ咲テ 秋ト云<sup>ニ</sup>ガナイワイ

秋の多合<sup>ハ</sup>けつ不<sup>ハ</sup>あつ きれど<sup>ハ</sup>もち

かみぢきぬときは乃山もゆくのきや秋とききつてつて

○秋デモ木紫ノ色ノカハルト云<sup>ト</sup>モノウテ常佳<sup>ト</sup>ニ<sup>ト</sup>チヤト云常磐山<sup>テ</sup>ハ時を込ガ

イツチヤカレ<sup>ニ</sup>イガ 秋チヤト云<sup>ト</sup>ハ風吹<sup>ク</sup>ま<sup>ハ</sup>カリテヨツニサテタテ<sup>テ</sup>アラウカ

秋の多合

よみ人志

きあふちて居ぞゆれかてあはあしとれ原はもみぢきぬむ

○考ガ立テアレ居ガサナワコレハモウ片岡ノ原ハ、紅葉ニタテアラウ

かみち月をともいすゆきふくしつてうらふれまひのものを

○木葉ラソル十月ノ雨モマダフラスニ神ナヒノ杜ハヤ葉テ赤下色ガ深ツラ

らうやぶるれまひ山もみぢあふまひいりきりうらうらもの成

○心ブカリヤスイ人ニ思ヒラカケルハアハウナ<sup>ト</sup>チヤガ けれ十三山ノ紅葉モ

ソチモノチヤ 思ヒハカケマイツ ホトナウチツテシマウモノヲ

欠親<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>綺<sup>ハ</sup>殿<sup>ハ</sup>のまふ木の本方らとやのうふ

させらるる枝ののみぢにあらきりけうふまかぬをのこ

どのよみうつでふもる 藤系からおむ

同ーを紙を紙をふくむうの浮かぬしを秋のこらぬりり純

○日シホノ木ノ枝チヤニ西ノ方へサレタ枝ガトリ分テアノヤウニカハツ  
タラヌレハナルホト西ガサ 秋ノハジメチヤワイノ

いー山よゆしできる時かとはぬ乃お紫成るく

よそをゆ づーゆま

秋風の吹やーロよりおとそを山をぬれ柄も色づきよふあり

○秋ノまッメタ日カラシテ凡ノ秀モカハツテキタガ今日ノ元レハ山ノ木茂モソロ

ソロ色ガツイテキタワイ ○ふ秋云い澤まじ上りをとらぬへし柄ゆしとらして  
凡のまじもりりくつとらんととせさるるあり

是気みらのぬれさふふあーとーゆまの秋風

白雲の色ハ心とゆいふやーと秋乃このを紙らにそむしき

○雲ノ色ハ皆日シツノ白イ色チヤニドウシテ秋ノ木ノ葉ヲアノヤウニソ

イロノ色ニソメルコヤラ ○ふ秋云いとらとれをいりのとのまを  
かきりまゆゆのをとらうり

壬生忠考

秋の夜は夢をば夢とおきぬぐう屋乃海やゆをそむしむ

○秋ノ夜ノ夢ヲバ白イ夢テソノマデオイト 別ニ屋ノナク海テ

アノ夜ノ夢亦ヲバソメルカニラス

雲ーゆま よみゆしとらぬ

秋の夜はつらくあしふおまばしそふのらぬをゆしゆぬ

○秋ノ夜ハタゞ白イ物チヤトガリ思テ居ルガサウテハナイサウナ色チヤガウ

テオクサウナソビテコソ 漆ツタ山ノ木紫カアノヤウニサフクノ色デアラウ

わらふ乃ちなりそあゝつゝのさ

ちりもさびくもつゝくもさ下紫のさく色つまふさ

○あもあもモキツウモルは山ノ木サハ下紫マデノコラス色ツイタワイ

秋のうこそよあゝ けりしむもやかて

あふさやあもいらぶはうささうは山をいさうみちらさるむ

○カサドリ山ハ傘ヲモツト云名ナレバ 雨ガフツテモあつホドモモリハスマ

イニドウシテアノヤウニお紫シソメタコトヤラ

沖のをしほのけりけりまがりきさあふさぎのうら  
はあ紫とんそあゝ けりしむ

ちりやゆ<sup>隔</sup> 沖のい<sup>隔</sup>さふさふさうとれあはあさうつらひふり

○コレニア沖社ノイカキニハウテアル葛ナレバ沖ノ守リテ色ハカリ

ソモナイモノナレド ソレモ秋ニエユタヘズニ色がカハツタワイ

き欠みはあのう合ふあゝ けりしむ

あふさばうささうら乃ちみぢ紫はゆきう人乃神さうとてあ

○一笠取少お紫ハコト外ヨウ漆テ 往來ノ人ノ袖ニテサ色がカヤイテリ

空あはあきさのああ合はが けりしむ

らゝ赤どもかあさうとさきもみぢ紫はあさうけりしむの色とんつま

○バお紫ヲスレバ一ダチリハ世子尼 子ヲ又サキカラ<sup>サ</sup>惜イ <sup>今ハ</sup>モウ十分

ニツメ名バオウ、ケチルデアラウト思へバサ

やまやまはむら〜まかりき〜はちやふちあは〜  
ア〜は〜を〜よめ〜 きれ〜とのめ〜

ふぐこのめのお〜き〜ね〜ば〜秋のうらなは〜ふ〜感〜え〜く〜し〜じ

○此サホ山サホ山の紫ハタガタニドノヤウニ大切ニスル錦デア、ヤウニ旁ガカ  
クニテ人ニモアセヌーヤラセツカクね紫ヲアヤウト思フテキタニ

是欠みにはおのち合はすよみ人あ〜び

秋ぎりハ〜さ〜ハ〜ら〜を〜係〜の〜く〜その〜紫〜よ〜そ〜ふ〜と〜ん〜じ

○旁ドウブケサハ立テクレナイアサホ山サホ山の紫ヲヨソカラナリトアヌヤウニ  
秋のち〜と〜し〜め〜 坂上、あ〜と〜け〜

うらふの〜その〜色〜う〜と〜れ〜ど〜秋〜は〜海〜も〜ぬ〜ふ〜と〜も〜 少部

○ワウタイ柞ノ木ト云モノハナニボ染テモ色ノアマリ濃ウハナラヌ物ナレバ  
今ハサホ山ノ柞モ色ハウスウテ深ウハナイケレバ アノケレキヲアヌレバ  
サテクマア秋ハイカウ涼ウナツターカナ

人のせんがふふ葉にむらびつき〜く〜あ〜る〜さ〜

うら〜く〜は〜る〜と〜ひ〜の〜お〜じ

く〜あ〜く〜を〜秋〜あ〜き〜と〜は〜や〜ら〜う〜さ〜む〜花〜を〜ら〜め〜招〜き〜枯〜り〜や

○カウレテウエテサオイタナスバコレカラ後 秋ト云時ガナイコトガアツタスハヨ  
サカヌーモアラウカレヌガ 秋ト云時をサへアラバアヌトアニハアルマイイ今今年  
ノ花コフチツテニハウケレ 根マデガ枯レカ根ハカレハ世子バイツマデモ  
毎年秋ハ咲デアアラウハサテ

宛を序時きく花をよむせ給くま

とーり、給花

とさかへけそこのへまそんも葉ハ何戸の早もどつやまされらる

○カヤウニ禁中デ足マスル菊ノ花ハ雲ノウヘテゴザリマスニヨツテ天ノ星チヤトサトリチガヘレマスルワイ

けちハまどと扇とゆゑさきざつとまきつおふれーあ  
まゝしてはくうよううとらん

乞負のみこは給のま合は秋 紀友則

あまがうをりてかざらひ菊はおおいそぬ給のまーのりるべく

○葉ノちハ壽令ヲ長ウスル物チヤトキケバイツテモ年ノヨリ又秋ヲ久

シウキ子テ長生ヲスルヤウニ此葉ノ花ヲ香モソマ、テ折テ頭ヘサ、ウ

宛を序時きまのまはま合のち 大和子里

うゑー時花ヤウをいふまー菊うつらふ秋ふあつまどやんし

○チウエ夕時ニ早ウ花ノサク秋ニタイトマチドホニ思フタ葉ガマア盛

かこニテモウ色ノカハワテシウ時葉ニチツテはヤウニチツタラ又ヤウトハ

思フタカイ  
。子秋云結るヤウドハヤ。そのまにてうつらふ  
秋よあつむいハ思ハうりーあのをとくつらふ。

あまのド時をさーまらる葉合ふまハすはつらりて葉

乃ちうゑまらりらふまーまらる葉あまきつげのほれまふ

葉極らりらるまらる まらる葉あまきつげ

秋の吹とにまらるまらるまらる花うけぬのほのよすか

○秋風ノフク吹上ノ候ニアルアノ白イ菊ノ花ハ 花カ サウデハチ  
イカ浪ノヨセルノカ 凡ガフクナレバ浪ノヨセルヤウニモスエルガ

仙あふ葉あふ成あふるあふをあふてあふ人あふのあふつあふるあふかあふとあふああふ

素性法師

ぬきそほきも山路のきくはあのみふいつく子年候あをふりむ

○在而カヘツテスルバモハヤ十年モミタヤウスチヤガオハ仙人ノス  
ミカヘイクトテ 山乃ノ葉をノ中ヲ分テイテ其葉ノ末ニキル物ノヌレタ  
ヲ干ス間ホドノチツトマデアツタニイツノマニア 十年モタツタヤラ  
きくはをのめくむて人の人まてるかふ成すあふ

ととのり

花あふつあふくあふ人あふのあふきあふきあふきあふきあふのあふ袖あふのあふもあふぎあふらあふやあふまあふれあふるあふ

○花ノ葉がラヌイくクル人ヲ待テ居ルトキニハソノ白イ花ガソノ  
クル人ノ白イ衣ノ袖ヲウニスエテ ヒタモノツチヤカトトリチガハレルワイ

大海の比乃りくふ菊くあふりをとる

一もやう思ひきくはかなきあめ比は屋あふれう急る

○夕あふ夕あふ一本あふチヤトあふタあふ葉あふをあふチヤニあふアレあふ比あふ底あふニあふモあふアルあふワあふアあふハあふ流あふガ  
比あふノあふ底あふヘあふモあふウあふエあふタあふヤあふラあふイあふヤあふクあふヨあふウあふスあふレあふバあふ新あふノあふウあふツあふタあふノあふチあふヤ

○千秋云々をその影ハみちるれきそぬのうこん

あの中はもうあきくは思ひはをりにきくあを  
とんでようあふる けしゆき



秋のきくゆりゆうにアハふびしてむむよりきくゆりあぬあふ辰

○葉ノ花ヲ カウ咲テアルウチハおルマデハカサシテアスガヅ アノ花ヨリ

サキヘ死オウモシレヌあガチヤモノヲ アソバイテハ

白葉花をよめる 元何内、つね

おわすふきくばやをいせおまのなきまどいさききくゆりのき

○アノヤウニ初まおがオイト 花ヤラ葉ヤラヒヌヤウニガウテスエル白葉ノ

花ハタイガイスイリヤウテヲラバ折モセウガ ナカク足分ラル、トテハナイ

乞食みよのあはるるのう よみ人あふ文

つゆうつる秋のきくをば一とせふゆきくびふあふ花くくゆりあふ

○ハジメホドハト下格別ニ色ノカウタアノ葉ノ花ハ日シテ花トハスエヌ

一年ノ内ニ二度サイタをチヤトサセル、餘材ト白ま遠くをアケテよあし

仁わふ葉花をゆりゆりあふゆきくゆりあふ花くくゆりあふ

らまはるばるこまゆりる 平、ゆきくゆり

秋をおきてゆきくをゆりゆきくゆりあふゆきくゆりあふゆきくゆりあふ

○キクノ花ハウツロイニヒテカラ 又カヤウ始ヨリハ色がサリマスバ 秋ノトサ

カリバカリテハゴザリマセヌ 秋ガスギテカラ又マイチド盛リ時葉ガサゴザ

リマス 恐レチカラ陛下ノ侍モハ菊ノ花ノトホリト存ジタリマス

人おあゆりきくゆりの花をうつりあふ

きくゆりあふゆきくゆりあふ

咲くゆりあふゆきくゆりあふゆきくゆりあふゆきくゆりあふ

○此葉ノ花ハ始メニ咲タヤド、ヤドガ替ツテウツクタレバ、  
西ノウツクタハ  
カリカ花ノ色ニテカサアノヤウニウツクテカハツタワイ

歌一〜〜

よみ人〜〜

佐保山のもそのお葉ちりぬべよよるさくえよとして〜月影

○アノサホ山ノ柞ノ木ノモミガオツケをウヤウニ又エルニヨツテ 昼バカリ

テナシニ夜モ人ニ見ヨト云テアノヤウニ月ガアカイ

みやづく久〜〜はく〜〜でひ里よ〜〜りゆり

りふよ〜〜

藤原関雄

おく山乃以そくはのみぢくアぬ〜〜日の光〜〜あな〜〜

○ヒヤウニヨイ岩ノ築<sup>ツイ</sup>地ノヤウニ立<sup>テ</sup>アル隈ニアル奥山ノお葉ハ日ノ光ヲ

スル時モナシニおテシニウデアアラウト思ハレルガア、クチヲレイオレガ身ノ  
ウモテウド此お葉トはジコチヤ

歌一〜〜

よみ人〜〜

立田川もみぢらみぢれてぬぢるきり海〜〜中や〜〜えちる

○立田川ハお葉ガチリミダシテ今<sup>サ</sup>流<sup>ル</sup>中流<sup>ル</sup>ルヤウスニ思ハレルソレデハ

今<sup>ハ</sup>流<sup>ル</sup>ワタナラバアウタラ後ガニ中カラキレルデアアラウカイ

はら〜〜人な〜〜のみ〜〜のゆ〜〜く〜〜む〜〜

〜〜〜〜り〜〜ち〜〜葉〜〜ぢ〜〜非〜〜ぢ〜〜のみ〜〜ぢ〜〜は〜〜ふ〜〜は〜〜あ〜〜る〜〜し

○此川ニお葉カナガレハ 非ナビノ山ニ時あガシテ風ガフクサウナ

あ〜〜〜〜ふ〜〜は〜〜の〜〜く〜〜は〜〜ぢ〜〜せ〜〜〜〜ぢ〜〜



ヲトクトスヨトテノカヤ

吹風はひら乃ちくさふそつふはねるものちきばねりら

○風ニ色ハナイモノヂヤニアノヤウニ風ノク色ガイロクニ足エルハドウ  
シタカト思ハバね紫ノチルユエヂヤワイ

せきを

糸のふて落のぬきとよくかじし心の後にはきバかひら

○山ノね紫ハちヤ糸ニ條ツテソレ錦ノヤウニナルヂヤスレヤ糸ト  
ちトガ糸ノハタラ織ル登ト横トノ系ノヤウナ物ヂヤガソノ糸ト糸  
トノタテヨノ系ガサ弱イサウナソレユエカレテアノね紫ノ後ガ織ルカ  
ト思ハバヤ片一方カラ破レルヤウニナリマス

うきんかんは本のうげふていぎとてよみら

偽遍昭

うびやのうけてまらここのなハねむくをねくね紫あはれ

○ナジラナ身ハナカラ何ニテ難浪ナモノカナコレハタモイヨイ陰ヂヤト  
思フテ足タテ立ヨル本ノハヨニモ早ウね紫ガ敷テニウチねムベキ  
カゲモナクウテヒウタワイ又ナジラナ者ノ立ヨル本ノハトリウケテ早ウ

二條 糸のまきま乃みやを所ノヤキを所ノヤキ  
ふらつと門ふね紫ねがれらるかて紙ウキウ  
らを敷そしとらる そちん

かみら等のほきてとあみらとあくらまをのほきてほき

○は立田川ノお祭ガヅトトヘナガテイテトニ湊ノアタリハツカ  
イナ色ノヨイ浪ガタワデアアラウカ

なりやうけの浪

ちりやうけの浪代もきくば立田川かしらもねのふらうけの浪とは

○は立田川ヘシゲウお祭ノ流レルトコロラバトト紅麻子おしボリト

見エルワイサテク奇妙ナカナ 神代ニサツぐノキメウナードモガアツタ

千ヤガ けヤウニ川ノ水ヲおノクノクノリツメニシタト云ハ神代ニモイツカウ

キカヌナヤ 。お秋云々ノイハ合式など  
中ノイハも額廻ノイハもい

是安みよのあはれうゑのあやしいゆゑのねた

つがまつゝわいもあはれうゑのあやしいゆゑのねた

○此クラブ山ノ木ドモノコノハノ中ナリニカウノデ 今トホツテ未  
夕方モトチカラキタヤラシヌ

ゆびみ

沖形び乃みゆらのあはれ秋ゆけは流らちきくちりアをえれ

○今秋ノコロは神代ニミムロノ山ヲトホレバ お祭ガチリカルデ 綿

ヲ着ルコノモチガカスルワイ 。お秋云々ノイハ合式など  
中ノイハも額廻ノイハもい

少ふりもみぢらをいひてしまわさるはあはれ

いひてしまわさるはあはれ

いひてしまわさるはあはれ

○ナニデモセシナイコトバ夜ノ終ト云ヤカスル人モナニハヤウニムダニ散テシ

一ツ夕奥山ノ紅葉ハナレボスヲテ海ノヤウデモ一ツトニ夜ハ海チヤワイ

秋のうら

わきとけ五

立田姫もむらさきのあれがうそ秋の紅葉はぬきくちららめ

○立田姫ハ神根チヤガソレデモ又内手向チナル神根ガアルヤラコワ

内自刃ノ内際チサタマ紅葉ガアレトトモ向ノ麻ヲチラスヤウニチリマス

少せしりふきしゆふもみけきりぬもみぢらをとる

うらたふ

ほくゆき

秋の山は紅葉ぬきくちららめむらさきも根ぢららめ

○秋ノ山デハアレアトホリニ紅葉チルヤウスガテウド旅人ノ多クチリチル

ヲチラニテ年向テクマウニエテヨウテ佳デ居ルチニテカドウヤラ旅ノコチカスル

赤多むい山をうらたふらと門をけりきりぬもみぢ

乃ぬれたふとありききりぬもみぢやぬ

赤多むい山をうらたふらと門をけりきりぬもみぢ

○コチモ今赤多むい山ヲテキテ立田川ヲ流ルガ昔テユク秋モソトホリテ

神ノゴナル赤多むい山ノ紅葉ハモウ散テユクハニテ西ヘユケバアレクヤウニ紅葉ノ麻

ヲバ立田川ヘタムケテ赤多むい山ノ城國乙訓郡立田川ハモウあやし律

ふつ上野とふ山流のうらたふらと別小考者

寛政出づききのあやし令のち 辰辰おき風

ふつ上野とふ山流のうらたふらと別小考者

○浪ノウハ本葉ノチウテウイテアルハ楓ノ流ニタ船デハナイカトサハエル



乞欠みよの歌はあ合のちよひみよ

山田も秋のかりわ小おく落るといふおれをきののぼなりきらと

○秋ノコロ山ノ田ノ番ヲスルハ小庭へはヤウニオノオイトハ 編員もガ

ハゴロオキテシゲウツケバソノナミダキヤワイコレハ

歌一とら歌

よみ人あつとど

ほふとせぬ山田をりふとゆげれいあむのあふぬもぬ日ハなし

○マダ穂モデヌ山田ヲトウカラ番ヲスルトテ毎町ノ稲ノ葉ノオデキル

モノノヌレヌ日トスハナイ 百姓ト云者ハア、ナギナモノギヤハヤウナ

ヤウスヲ上ニハおぬアルマイガ 歌はハツヤ一き者のきりのん

○よ秋まごも君も人をおとふゆくとをぬしほひまふべきらんトとてきき人乃  
心むへともおれなり又きき人の下におれまをぬしとてあらうすへきハあ

かきつ山小あつちむつらめりわ小ぬぬあせ今さふりきとせぬしり

○菊テシラタ田へ又アトハエタヒツチノ穂ノテヌハ 時とれモウ秋ガハテタ

世中ヲモウアキハテタシガサラ穂ヲガサウヤウハナイト思フコトイ

小山よ傍山遍昭しくわけづらふ小中かきり年々小

よみ人

そせは法師

かみち草之神ふら泥つきておてかむむ秋ハ浪とるむ人のしと先

○けお紫ヲハ袖ヘコキオロシテ入テ持テハ山ヲカテイニテミヤゲニセウハ定

メテ秋ハモウハヤシニイチヤト思フテ居ルデアラウガサウ思フテ居人ノタメニ

寛平、伊時あつらふてよつとておれせしれは色バ

立園もみちなはれづるといふはけうきてそのねる



心をよめりきき おきこのせ

みやうとて産らるるあはれをこそ秋ははらうと思ひしをぬ

○モシヤ海山ナドニハダ秋がゆつテアルテモアラウカト思フタガ  
ハヤウニ海山カラ 夏夕の紫ノ流レテクルあつ色ヲ見レバササテ  
ハモウイヨク秋ハヒトニナウタト思ヒニツタ

秋ははらうをよめりきき

はらうゆき

年あつにもみち紫がを立田川みるもや秋のゆりあつむ  
○毎年く秋の紫ヲ 筏ヤ船ノヤウニ流レテヤル立田川ハ川下ノ  
湊ガ秋ノトマル所デアラウカイ ソレヲ湊へる子テイテ秋ニ逢タイ

モノチヤクレテユクノハノコリオホイ秋チヤニ

あつむのゆきゆき日大井

夕月をぐらふゆりゆきをぬらち也秋はらうむ

○一ヶフハ九月晦日デモウ日モクレカタニナウタガアレク小倉山デ鹿  
ノナク長イ声ノキレヌウチニハヤ秋ハクレテシニウデアラウカ

あつむのゆきゆき

さあつむのゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

○秋ハモウお紫ヲ子ルヲ道ノ神ヘノ麻ニテ手向テ旅立テイニテシマウ  
タワイサテモくゆり多イノカナ道ヲシツタラ跡カラ尋テり居ユカウ

古歌和歌集卷第六巻後

冬

題

よき人

多うし河津ありかくかみる月とら社の面をとしぬきふて

○立田川へお茶の葉テ流レルトコロラスバ ぬぬノ系ノヤウナウラ  
望横ノ系ニシテ機ヘカケテ海ヲ横ルトスエル

冬めあそびよあそび 源宗千太郎

山里ハ冬をどけびりさきまつりきさるくめとあもかきぬとあへを

○山里ハイツデモサビシイガ冬ハサベツテサビシサガミツワイ人ノコヌコノ人目ガ

カレト云チヤガ今マテハタラシク足ヲ人目モカレル事モ枯クニヨツテサ

かきぬとあへをどけびりさきまつりきさるくめとあもかきぬとあへを

冬

よみ

大雪の月けむりしは冬をば新えりあそびをめぐりありまほ

○昨夜ノソラノ月ガキツウサエタニヨツテクノ新ノ冬水ガサケサハアノ

ヤウニツツパンニホツクワイ  
○女林云ニのり菱赤万葉明詠ふとふ事  
りまにわりの方まきりてサロ

夕ぎきば衣あらしむしみどりせおとせふこおぬし

○ハゴロハユフカタニナレバイカウキイマニツ着ニヤナラヌコトハモウ

吉野山へハ雪ガフツタサウナ

いまよりハはきぎてぬいだむらぶ家の雪かぬいぬれぬ

○コレカラハツバイテ伝へフレカシコナノ庭ノス、キヲオシナビカシテ  
ツモツタアノ雪ノケキキツウオモシロイ

ゆきをわが門をきぬししゆき<sup>ほ</sup>のふれはつせまき<sup>ま</sup>を

○山ハ雪ガフルヤウスチヤガフルウチニハヤ片<sup>かり</sup>一方カラサキエルサウナソノ

雪ドケト足エテアノ山カラ流レ落ル川ノ水ガシテチガアレ高ウナツタワ

け川ふみぢら糸ねがく山のちをきれあど今届さくし

○此川ハお葉ガ流レルコニテハ流レテコナガ<sup>五のい</sup>今アノヤウニ流レテキタノハ川上

ノ奥山ノ雪ドケテ水ガ増<sup>ま</sup>サウナツテ川上ニヨドテアウタ木葉ガ今流テクルチヤ

あつとくしねむしちうれをむく日もみおあつぬ日らあ

○け吉世ノ里ハち山ガ近イニヨツテケガ十一日モ雪ノフラス日ト云ハナイ

氷をぎハおぬりちきてそまねしあこかてとよ人しねま

○コナノ庭ハイチメニちガツモツタマデ道モナイフミ余テア子テクル人

ガナイチヤニヨツテサをツテクル人がアラウナラセメテ乃ハシテアラウニ

そのちとくしあく 紀ゆらく

ちぬとバをごのりちをちも本もまふちねぬむどさだ

○冬ガレデマダメモデヌ草モ本モちガフレバ去ニサタナレ花ガサ

イタノイソウタイ花ハ去ニナツテ咲クモノチヤニ

あかれ山ちえちよあく きのらきみ

白ちとくしねむしちうれをむく日もみおあつぬ日らあ

○ちガドコトニナニヒラメニツモツタバ木テハナウテ花ノサクマイ岩

へモサ花が咲タトスエル

。十杖云。お賀の山にえん。花の名ど。うりなれハ。その花のしと。おひて。よめ。あ。ん。う。

な。い。れ。系。小。ま。か。ま。り。り。と。は。よ。や。し。れ。り。き。と。あ  
あ。い。し。よ。え。い。あ。 ね。と。あ。い。の。さ。

み。い。の。山。れ。あ。い。る。は。わ。い。し。な。れ。ま。い。く。り。ま。さ。り。あ。い。

○今夜ハ吉野山ノ宮ガイカウツモルサウナソレデ此ヘンマデガコノ  
ヤウニダラクサムサガニサルデヤ

宮。平。清。時。き。さ。の。あ。い。ら。あ。い。ら。ぬ。ら。い。は。あ。き。う。せ

浦。ち。や。く。ゆ。り。く。く。宮。ハ。あ。い。は。の。末。乃。う。り。山。を。か。と。と。ど。み。る

○カノ奥州ノ末ノ松山ト云所ハ古クニ浪モコエナントヨテアツテ名ノ  
ニイコチヤガ今カウ海也近イア。君ノツテルケキハ白浪ガマコ

トニソノ末ノ松山ヲサヨルノカトスエル 餘材は初句と末の松山乃  
あ。い。の。浦。い。え。い。ら。あ。い。ら。ぬ。ら。い。は。あ。き。う。せ

壬午、大早

み。い。の。山。れ。あ。い。る。は。わ。い。し。な。れ。ま。い。く。り。ま。さ。り。あ。い。

○ま。い。山。へ。涼。イ。君。ヲ。フ。ミ。合。テ。コ。モ。ツ。タ。人。ガ。ま。後。一。向。ニ。オ。ツ。シ。モ。ナ。イ。ガ  
君。ガ。は。く。フ。カ。ウ。ナ。ツ。テ。使。リ。モ。シ。ラ。レ。ヌ。カ。イ。ヨ。ク。セ。ウ。ナ。カ。キ。キ。氣。ノ

ツヨイ石ナレバモシワツラハレナドハセヌカ アンジラル、ワイ

小。宮。の。あ。い。し。よ。え。い。あ。い。の。山。れ。あ。い。る。は。わ。い。し。な。れ。ま。い。く。り。ま。さ。り。あ。い。

○雪ノフツテ降。フカウツモツタ山里ハサツヤキウハアラウニサビシワハア  
ラウニ サウ云所デハ 住テ居ル人マデガ心ノキエイルヤウニモラデカナアラウ

雪ハシマイニ消ルモノチヤガソノ君ヤウニサ心マデガ

ちけあふびえてよあゝ 元は内なる杯

君ゆりてくも海にぬきぬきや路をうとぬくおもひきゆひ

○雪フリニカウシテ居ル我心ハナイトバ<sup>ニ</sup>ヤウニ君ガフツテ人トホリモ<sup>タ</sup>絶テ

足跡モナウナウテソコト云物モシヌヤウニ消テニウ<sup>ニ</sup>道ノヤウナ物<sup>ニ</sup>チヤヤラ

カウシテ居ル心ガキエヤウナ<sup>ニ</sup> 。ふ秋云三の夕のあまぎ。ほ夕のらんとの  
あつひ此譯としく味ひてきこべし。

ちのちとくふよみりる 清ふぬらやぶ

ちけあふしやとり業乃ちつるこくふやものあまぎはまきやけりしひ

○マダ冬ナガラヤカラアノヤウニ花ノ取テクルハアノキモノアチラハモウ  
よま<sup>ニ</sup>チヤカシラヌ

雪のあふしやりのけりもともきこふ心とま

つゆき

ちけあふしやりのけりしやちのまより花とつるまきぞちりりる

○今ハ冬ガレテマダメモテヌアノ本ナバ品ヒガケモナイニ枝ノアヒダ

カラ花ノチルトスエルホドニサニ君ガフルワイ

やまやけふふほりぬるこくふはふ雪のちりきぬけ

ついでしよふら

ちけあふしやりの月とつるまきふしやけり里にふれぬ白き雪

○カウ夜ノ引リトアケタ時ニスバ<sup>ニ</sup>テウドろぬ月ノ沈ツタ新トスエルホドニ

吉せり里へ君ガフツタ<sup>ニ</sup> 。ふ秋云ちけりけのあまぎ。朗明のつらまきこくふ。葉中  
意三ふのりれやがくくはゆけハまき。きん。

朝一〜ん文

よみ人あ〜ん

とさぬがうふふ又もふりあけ去る庭もちらみみちまはるふりあめ

○ハ雪ハ一ダキエヌウハモ又ツイテフリカサナレオツケカキテ庭

ノタツ時々ニツタナラハニコソフリモセウケレ庭ハスラレマイホドニ

梅もももまるとんぞいさかめあふまふもちのふでしてぬきせば

○三あふまふ雪ガオシナメテドコモカモフツタレバ梅ノ花ガ梅ノ花ト

モスエヌ 同シ白サチヤニヨツテ

此ちハゆい〜んかまのわ人まはるが〜ん

梅のゆい〜んちのゆい〜んちのゆい

花のゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜ん

○花ノ色ハ雪ニマジツテソト台シテ見エズ凡<sup>五</sup>人が梅ノ花ガヤトルヤウニ

セメテ香ナリトモハツキリトシレヤウニニホハ

雪のうちは梅をよめる きのほ〜ん

梅のゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜ん

○梅花ハ色ハ白ウテ香ニガウガモシ香マデガ色ヤウニツモツタヤテ

マカウナラバ誰ガ雪ト梅花トヲヨウベツクニスガテ折ウグイタレモ

エヌ台ケハスマイ 香カマガハ子バコラ

雪はあふ〜んちのゆい〜ん 紀〜ん

とさぬがうふふ小花がゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜んちのゆい〜ん

○雪ガフレバ何ノ木モミナ花ノサイタヤウナウイ ドレヲ梅チヤトスガテ

ヲラウヅ ドウモんくらニクイ

ヨソへイタ人ヲ  
おんちかりりあんとまうらもあつらものつぶら

フーとらんふ  
みつ

つがゆいぬ年ハホぬれど冬あのかれお一人ハおづきもせぞ

○コチガマモセヌ来年ノ年ハモウ近ウキタケレ尼今ヅレノ草ノヤウニ

カレテヨソへイタ人ハコチガコホド待ツニマダカツテコヌノミナズ子カラ  
オトヅレモセヌカレト云ハヨソへイテヨリウカヌイヤゾイ

おんちかりりあんとまうらもあつらものつぶら

河ももさばとをそりふねとぶちもあつとみりまきあつ

○一 年ノ終リニナルタビコトニ者モフリサルガコチガ身モ後フルサガマ

サツテサ 次カニ年カヨツテイクアコミツタモノヤ

宛事時ききのあはあのうよみ人き

雪あつとそ年のそあぬあつとつひふりみぢぬねもつん

○今マデアヤあヤああガフツテモ松ハ色ガカラナタガ乙テモダハ

ウノ雪ガツタラバモシ色ガカルデモアラフカト思フタガ今ハヤウニ者ガフツ  
テモヤツハリ色ハカハラスニモウ年ガクシタカラハサハトウシウ色ノ  
カハラヌ松ヤトエモコデコソアエタモノナレ

とーのそふとらる そほみらのあ

ゆらゆらひりやして明日も川流れてまきは日あり

○昨日今日明日ト云テ一日ノトクラニテツイモウ年ノタニナタヤ





